



2018年  
4月14日(土)…7月1日(日)

●【開館時間】午前9時30分～午後5時(券売は閉館30分前まで) \*5月3日(木)、5月26日(土)、6月2日(土)は午後7時まで開館します。●【休館日】毎週月曜日\*4月30日(月)は開館し、5月1日(火)は休館します。●【観覧料】一般300円、小・中学生150円\*この料金で当館常設展および横浜ユーラシア文化館もご覧いただけます。\*毎週土曜日、小・中学生と高校生は無料です。

●【主催】横浜都市発展記念館 / ●【共催】横浜市教育委員会 / ●【協力】京浜急行電鉄株式会社・首都高速道路株式会社・横浜セントラルタウンフェスティバル実行委員会 / ●【後援】朝日新聞横浜総局・神奈川新聞社・毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・NHK横浜放送局・tvk

横浜をめぐる交通網

# 広がる 道鉄 路道

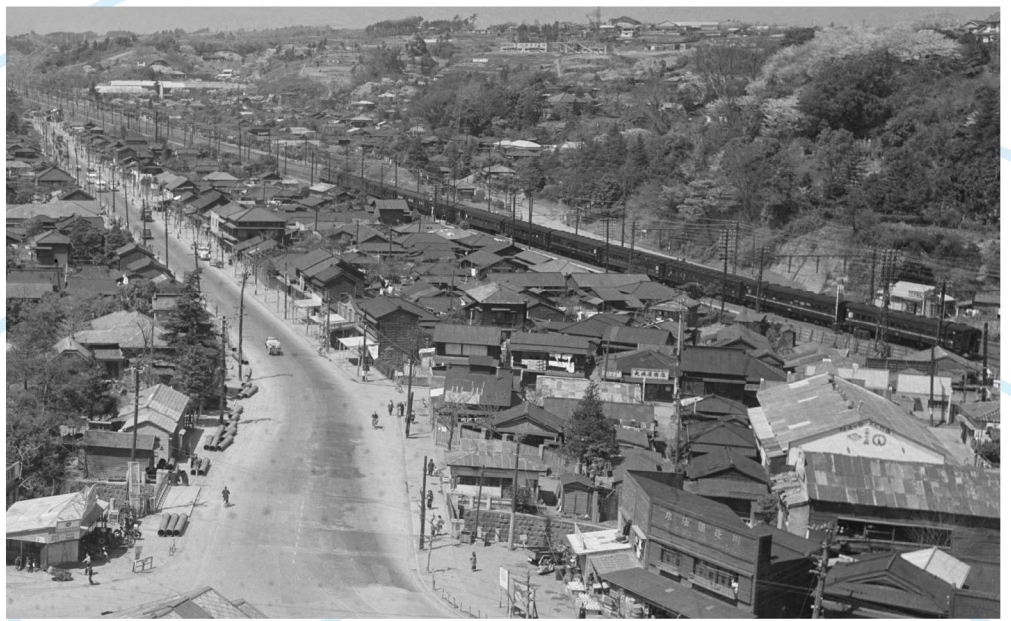
横浜都市発展記念館  
Museum of Yokohama Urban History



●横浜は幕末の開港以来、日本を代表する港町として発展しました。しかし、その都市形成には海の交通はもちろん、陸の交通が深く関わってきました。

●陸上の交通インフラは鉄道と道路に分けられます。近代化とともにまず、鉄道が主役で道路がそれを補完する時代となり、そして現代の社会では鉄道と道路がそれぞれ役割を分担するようになっていきます。

●この企画展では、横浜の交通インフラとそのネットワークのあゆみを紹介します。



【●内容構成●】

I 交通インフラの文明開化

「歩く道」から「鉄のレール」へ

首都と開港場を結ぶ／難航する東海道と横浜の接続／市街地の交通網の形成

II 近代交通ネットワークの完成

「陸の王者」鉄道

さらに発展する京浜間の交通インフラ／横浜から多摩・相模へのローカル輸送／陸の大ターミナル横浜駅の形成

III 現代の交通

高速鉄道と自動車道路の時代

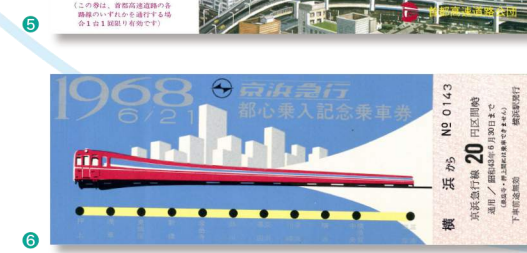
現代の東海道と横浜／チンチン電車の時代から、都市交通の転換へ／首都圏の巨大交通網に組み込まれる横浜



みなとみらい線日本大通り駅(3番出口)0分  
 JR根岸線関内駅(南口)・市営地下鉄ブルーライン関内駅(1番出口)から徒歩約10分  
 横浜市営・かなちゅうバス「日本大通り駅県庁前」下車徒歩1分



優待通行券  
 ○有効期間  
 昭和53年3月7日から昭和53年4月6日まで



①国道1号と東海道本線(保土ヶ谷付近)、1953年、神奈川県新聞社撮影／②高島町の国道交差点、1949年、長谷川弘和氏撮影／③横浜駅と国道1号(絵葉書)、1964年／④「東京横浜近道」(ポスター)、1929年頃／⑤横羽線・三ツ沢線開通記念の優待通行券、1978年、首都高速道路協会所蔵／⑥京急の都営地下鉄乗り入れ記念切符、1968年

【展示解説】  
 展示担当が見どころを解説します。参加費無料(観覧券が必要です)。いずれも45分間。  
 【日時】①4月29日(日)午後2時～  
 ②5月3日(木)午後5時～  
 ③5月27日(日)午後2時～  
 ④6月10日(日)午後2時～  
 ⑤6月24日(日)午後2時～

【ワークショップ】「ジャンボ双六」ほか  
 毎週末および祝日に当館1階にて開催(午後4時まで)。申し込みは不要、参加費は無料です。

【関連企画】  
 京急電鉄創立120周年記念ミニ展示  
 京浜電気鉄道と湘南電気鉄道  
 【協力】京浜急行電鉄株式会社  
 【会期】2018年3月21日(水)～7月1日(日)  
 【会場】4階常設展示室ミニ展示コーナー

首都高横羽線開通50周年記念写真パネル展  
 開通した当時の横浜の高速道路  
 【協力】首都高速道路株式会社  
 【会期】2018年4月14日(土)～7月1日(日)  
 【会場】1階ギャラリー(無料ゾーン)

横浜セントラルタウンフェスティバル  
 "Y159"参加プログラム  
 5月26日(土)・27日(日)  
 "Y159"開催日の5月26日(土)・27日(日)および開港記念日の6月2日(土)は全館無料でご覧いただけます。

**横浜都市発展記念館**  
 Museum of Yokohama Urban History  
 〒231-0021 横浜市中区日本大通12  
 TEL.045-663-2424 / FAX.045-663-2453  
 http://www.tohatsu.city.yokohama.jp/